

松本市の社会教育についての提言書

平成21年9月24日
松本市社会教育委員会議

目 次

1 はじめに

2 提言1 伝統文化の継承について

(1) 伝統文化に関する情報収集、記録保存の取り組みと発表・発信をしていきましょう。

(2) 伝統文化の果たしてきた役割を再認識し、時代に合った地域づくりに生かしましょう。

(3) 住民と行政が協働してリーダーを養成し、地域を育てましょう。

3 提言2 家庭・学校・地域の連携について

(1) 子どもたちが主体の行事や活動を支援しましょう。

(2) 地域のリーダー（指導者、支援者）を育成しましょう。

4 まとめ

1 はじめに

社会教育というと極めて間口が広く、どこからでもどの切り口からでも、行動をおこして提案できる反面、広すぎて的が絞れず、中途半端で消化不良気味の活動を反省していました。

そんな中私たちは、「行動する社会教育委員」を旗印に「伝統文化の継承について」と「家庭・学校・地域での連携について」をテーマとし、机を囲んでの会議から脱皮し、実際に現場や現地に足を運び、携わる人と語り合い、雰囲気を感じた上で、提言書をまとめることができたのはそれなりに意義のあるものと思っています。

物の時代から心の時代と言われて久しい中、振り切れる寸前までいった振子を元にもどすには、市民一人ひとりの心構えと地道な努力が必要です。永い歴史の中で私たちの祖先や先達は、振子を正常の位置にもどす智恵と努力によって、時代の変化に応じてバランスを保ち今日があります。

今私たちは、その恩恵を受けて生活しています。そしてそのことを後世に受け継いでいく責任があります。

この提言が、社会教育活動の推進に少しでも役立つことがあれば幸いです。

2 提言1 伝統文化の継承について

私たちの生活する地域は、時代と共に脈々と受け継がれてきた伝統文化に支えられ、豊かな自然の中で、そこに住む人々の力によって、すばらしいまち「松本」が築かれてきました。

しかし、近年の超少子高齢時代の中で、自然を守り伝統を受け継いでくれる若い世代が少なくなり、その結果、子どもたちの集まりや行動から広がった地域の人と人とのつながりが、残念ながら薄くなってきているように感じます。

それは、経済優先の世の中で、物質的な豊かさが重要視され、私たちの生活の様子が変わり、個々の心の中にあった「ゆとり」がなくなってきてしまったからではないでしょうか。

そこで、このすばらしいまち「松本」を次の世代に継承するためには、地域固有の伝統文化の果たしてきた役割を再認識し、伝統文化を活用しながら、そこに生活する人々の手によって地域づくりを進めていくことが必要だと考えます。そのことが私たちの心の中にゆとりを生み、松本市のすばらしさを改めて実感するきっかけとなるのではないのでしょうか。

このような観点で、次のとおり提言をまとめました。

伝統文化とは、地域に存在する祭事や生活文化等幅広い意味の文化を指します。

(1) 伝統文化に関する情報収集、記録保存の取り組みと発表・発信をしていきましょう。

私たちは、それぞれの地域で傳承されている様々な文化について知らなければなりません。

幾多の時代の変遷を乗り越え、受け継がれてきた文化の背景を理解すること、伝統文化を守りながら改めてその価値の大きさを見直すことは、豊かな人間性を育み、私たちの生きる力となっていくものだと思います。

その実現のため、次の3点を提言します。

伝統文化の情報収集、記録保存の推進

伝統文化の再認識と活用方策の研究

伝統文化を発表する機会の創出

(2) 伝統文化の果たしてきた役割を再認識し、時代に合った地域づくりに生かしましょう。

経済優先に片寄った今の暮らしを、人々のつながりや助け合いを重視した地域社会にするためには、伝統文化の果たす役割は大変重要であると考えます。

そこで、心豊かに生活し、時代の変化に対応した地域づくりを進めるために、単に伝統文化を守り続けるだけではなく、一步踏み出した新たな取り組みが必要ではないでしょうか。

その実現のため、次の2点を提言します。

伝統文化を通じた人と人とのつながりの再構築

時代の変化に対応した新しい取り組みの創出

(3) 住民と行政が協働してリーダーを養成し、地域を育て ましょう。

私たちは、それぞれの地域に受け継がれている伝統文化を次の世代に引き継いでいく使命があると考えます。

先人が守り受け継いできたこの貴重な財産を、地域の生きた教材として伝えて、地域を担い活躍する人材をみんなで育てていきたいと思ひます。

その実現のため、次の4点を提言します。

学校や公民館、博物館、図書館などにおける地域の歴史・文化を学ぶ
場づくり

地域に生活する人々が伝統を肌で感じながら心のゆとりを取り戻せる
環境づくり

積極的に伝統文化を受け継ぐ人材の育成

伝統文化継承に係る人的・物的支援策の推進

3 提言2 家庭・学校・地域の連携について

次の世代の担い手である子どもたちは、できる限り良い環境の中で、子どもらしさを失わずに、心も体も大きく成長してほしいと思います。

私たちが子どもの頃は、もっと地域との関わりや人とのふれあいが深かったように思います。今の子どもたちを見ると、地域でも学校でも限られた世界の中で行動しているように感じます。

放課後や休日の遊びや活動の中で学ぶことは、貴重な経験となり、子どもたちの生きる力を育てていきます。したがって、家庭や学校だけではなく、地域においても「地域の子どもは地域で育てる」という観点から、子どもたちの主体性を尊重していくことが必要なのではないでしょうか。

また、現在様々な場面で、家庭・学校・地域が連携した事業・施策が展開されていますが、これらの実態や課題の整理、把握ができていないように思われます。事業を個々に推進するだけでなく、有機的に連携させることで、もっと大きな効果が得られると考えます。

このような観点で、次のとおり提言をまとめました。

(1) 子どもたちが主体の行事や活動を支援しましょう。

大人たち主体の行事や活動を子どもたちの手へとバトンタッチすることが大切です。各地域の人々との温かい人間関係の中で、その限りない力を発揮させる場をつくり、子どもたちの主体性を尊重して、子どもの成長をあたたく見守りながら、時には支援していくことが重要だと考えます。

そうすることで、子どもたちは、自分の考えを持って行動し、一人ひとりが地域の中で生きる力を身につけることができるのではないのでしょうか。

その実現のため、次の3点を提言します。

子どもたちの手で行う行事（三九郎、青山様・ぼんぼん等）への支援

子どもたちが自由に考えを発表し、のびのびと活躍できる場づくり

「子ども公民館」や「将来のまつもとコンテスト」など子どもたちが
主体となる事業への支援

「子ども公民館」とは、大人の見守る中で、子どもたちが自分でしたいこと（願い）を自分たちの力でやりとげる経験を通して自立心を育てていく活動

「将来のまつもとコンテスト」とは、子どもたち一人ひとりがこうあって欲しいと思い描く将来の松本を発表する場

(2) 地域のリーダー（指導者、支援者）を育成しましょう。

子どもたちが地域で活動する時には、危険が伴う場合があります。しかし、安全性ばかり追求すると、活動の場が限定され子どもたちの成長する機会が失われてしまいます。

子どもたちが安心して自主的な活動ができるように、地域にリーダー（指導者・支援者）が必要だと考えます。

その実現のため、次の2点を提言します。

地域のリーダーの育成事業の推進

地域に埋もれているリーダーの掘り起こし・紹介

4 まとめ

今任期中の活動の集大成として、提言をまとめ教育委員会へ提出することを目標に、2つの分科会でそれぞれテーマを決めて取り組んできました。

関係施設や事業の視察を行うとともに、伝統文化に係る事業と家庭・学校・地域が連携した事業の事例調査を各地区公民館にお願いし、その多くの事例を踏まえて提言内容の検討を進めてきました。

できるだけ実現可能なものにしたいという思いから、具体的な提言をしたいと考え、各分科会で協議を重ねてきましたが、その目標に沿った内容になっていない部分もあり、課題として次期の活動につなげるようにしたいと考えております。

今回の提言を実現してほしいという私たちの願いを、ぜひともご理解いただくとともに、教育委員会としても積極的に取り組まれるよう要望いたします。

今後とも社会教育委員の活動に対して、ご指導ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

この提言に関わった社会教育委員

(任期：平成19年10月1日～平成21年9月30日)

水野 好清

吉崎 明良 ~平成21年3月

和田 哲雄 平成21年4月~

大久保 美智子

小岩井 洋子

宮川 秀紀

渡辺 はる美

赤羽 勝己

横山 俊彦

酒井 宏和

佐々木 清夫

忠地 愛子

藤廣 致行

二木 勝清

山元 秀泰

制作 平成21年9月24日

編集 松本市社会教育委員会議

議長 佐々木 清夫

〒390-0874

松本市大手3-8-13 大手事務所4F

松本市教育委員会 教育政策課内

松本市社会教育委員会議事務局

電話 0263-33-3980 F a x 0263-33-3934

メール : somu@city.matsumoto.nagano.jp